

2018年度

第1回特待・アドバンスト入試

時間50分 100点満点

国語

受験上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 実施時間は50分で、100点満点です。時間配分に注意して解答してください。
3. 解答は解答用紙にていねいに記入してください。
4. 解答用紙・問題用紙両方に、受験番号、座席番号、名前を記入してください。座席番号は、机に貼ってある番号のことです。
5. 試験中は携帯電話の電源を必ず切ってください。
6. 私語や物の貸し借りなどは認めていません。困ったことがある場合は、手をあげて先生に相談しその指示に従ってください。

受験番号 _____ 座席番号 _____

名 前 _____

聖学院中学校

□ — のカタカナ部分を漢字になおしなさい。

- (1) 気持ちを落ち着けて矢をイ_ル。
- (2) 選挙では自分の支持するセイトウ_に投票した。
- (3) さまざまな案についてケントウ_{する}。
- (4) 友達からのチュウコク_は素直に聞いた方が良い。
- (5) 日本代表の活躍にコウブン_{する}。
- (6) サクバン_は雨が強く降っていた。
- (7) 課題にはリンキ_に対応していく。
- (8) インフルエンザ_が世界的なキボ_で流行している。
- (9) メンミツ_な計画を立てて行動する。
- (10) 自らを厳しくイマシ_{める}。

〔二〕 主人公である「榊井」は、陸上部の部長として、目前に迫った駅伝大会で良い成績を取りたいと考えています。次の文章を読んで後の間に答えなさい。

駅伝大会が着々と近づく中で、みんなの走りもよくなっていた。大田のケンカ早さがそのまま出たような走りは他を寄せ付けないパワフルさがあつたし、渡部はよりスマートで磨かれた走りをしていった。ジローは根性がある。みんなが帰った後も自主トレをしているだけあつて、走りが安定してきた。

不調だった設楽も徐々に調子を取り戻しているし、俊介に至ってはさらに勢いを増していた。その一方で、おれの走りはまったく上がらなかった。みんなが結果を出す中、おれはだめになっていくだけだった。

「今日は1000の※1インターバル三本、間の※2ジョグは一周四十秒で。最後の1000のタイムはフリーね。レースをイメージして、最後の一本は全力で上げてきて」

上原はみんなが集まったのを確認し、メニューを発表した。

二学期に入って練習メニューもしっかりとした内容のものになってきた。最初は記録会に行くたびにおろおろしていた上原が、何回目かの記録会の後から他校の練習メニューを集め始めたのだ。

「どの学校の先生もいくらでも聞いてくださいって。中学校のスポーツってオープンでいいよね」と上原はいろんな学校のメニューを集めては、おれたちに嬉しそうに見せていた。

「げー。ロングのインターバルかよ」

メニューを聞くなり、大田は舌打ちをした。

「水曜日は疲れるんだよなあ」

ジローもため息をついている。週の真ん中の水曜日は、みんなの意欲も低くなる。

「明日は軽めのメニューだし、今日はがんばるところよ。大田もジローも今すぐく速くなってきてるんだしさ」
おれが弾みをつけるように言うと、「そっかな」と単純な①ジローはすぐに顔をほころばせた。

「そうそう。最初とは比べ物にならないよ」

「自分でもこんなに走れるとは思ってなかったけどな」

ジローは自慢げに笑った。

「大田はもともと速いけどな」

おれが付け加えると、「わかりきったこと、いちいち言ってるな」と②大田は頭をかいた。

自分がうまく走れないのなら、せめてみんなに思いっきり走ってもらわなくてはいけない。運のいいことにおれは部長だ。それができる立場にいる。おれは今まで以上にみんなに声をかけ、チームを盛り上げることに努めた。

「えっと……、俊介は余裕だろ？」

視線を感じて振り向くと、③俊介が神妙な顔でおれを見ていた。俊介は陸上部だし、ロングインターバルだって慣れているはずだ。

「あ。ああ。うん」

「二年だからとか遠慮えんりょせずにガンガン走れよ。俊介は絶対調だからな」

「わかりました」

俊介は静かに微笑ほほえんだ。いつもの俊介なら「任せといて」と無邪むじや気に笑ったはずだ。少し前、ちょうどおれが崩くずれだしたころから、俊介はおれに接しにくそうにしていた。もちろん、変わらずおれを慕したってくれていたし、誰だれよりもおれのそばにいた。でも、よそよそしかった。うまく走れないおれとどう関わかまわつていいのか戸惑とまじっているのだ。今のおれを抜くことは、俊介には難しいことじゃない。このままいけば、俊介はおれより速くなる。だけど、おれを越こえてはいけない。その迷いが俊介をぎこちなくさせているのだ。

今日こそ走ろう。このままではみんなに気を遣つかわせてしまう。貧血なんて関係ない。もう大会は間近だ。④甘あまいこととは言いってられない。精一杯やればできるはずだ。いつもと同じように、そう唱となえてからスタートを切った。しかし、いつもと同じように、やっぱりうまく走れなかった。最後の1000メートル、みんなが力を振り絞しぼる中で、おれはただ足を進めることしかできなかった。何とかトップを守ることができたけど、すぐ後ろには俊介がいた。

「だ、大丈夫？」

走り終え呼吸を整えるために、グラウンドの周りを歩くおれのそばに設楽がやってきた。

「何が？」

「い、いや、な、なんていうか」

緊張や不安が高まると設楽は言葉がつかかる。なにか言って設楽を笑わせなくてはと思っただけ、疲れ切った頭に気の利いた言葉など浮かばなかった。

「ま、榊井、だいぶしんどそうだな」

「そうかな」

「ぼ、僕よりは速いけど」

「まあ」

「ま、榊井さ、も、も、もしかしたらさ……」

設楽は言葉がつまつてごくりと唾をのんだ。

「もしかしたら、太ったんじゃないかって？ そうだな。最近食べ過ぎてるのかな。そのせいで遅くなってるのかも。ダイエットしなきゃな」

呼吸が整い始めたおれは、やっと冗談めかした。

「あーでも、走るとおなिकासくんだよな」

「あ、ああ」

「食べるのを我慢するのって難しいよな」

「そ、そうだな。うん、そうだ」

設樂はかすかに笑ってうなずいた。三年間一緒に走ってきたのだ。設樂が感づいていてもおかしくはない。みんなおれに困惑している。早く何とかしなくては。⑤この空気を変えなくては。もう時間はないのだ。

(瀬尾まいこ) 『あと少し、もう少し』

※1 インターバル … 激しい運動と激しくない運動を交互に繰り返すトレーニングの方法。

※2 ジョグ … ゆっくりした速さで走ること。ジョギングの略称。

問一 ——— ①について、このときの「ジロー」の心情の説明としてもっともふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア、尊敬している榊井のアドバイスを聞いて素直に納得している。

イ、陸上部の部長である榊井の言葉を聞いて心から安心している。

ウ、信頼している榊井に実力を認められて純粹に喜んでる。

エ、榊井の指導で走りが速くなったことに心底感謝している。

問二——②について、このときの「大田」の心情の説明としてもっともふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア、当たり前のことを指摘されいらだちを感じている

イ、他人の前で自分の走りが認められたので照れている。

ウ、練習前に不用意な発言したことを恥ずかしく思っている。

エ、榊井の見え透いたお世辞を聞いてあきれ返っている。

問三——③について、「俊介」がそのような「顔」をしている理由を「榊井」はどのように考えていますか。その

説明としてもっともふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア、部長の榊井よりも好調であることをとがめられるのではないかと恐れているから。

イ、不調であるのに榊井が先輩風を吹かして声をかけてきたことに不満を持っているから。

ウ、尊敬している先輩である榊井よりも良い走りをしてしまいくらいのように接していいかわからず困惑しているから。

エ、大会が目前に迫っているのに部長である榊井の調子が上がらないことに不安を感じているから。

問四——④について、「甘いこと」とは具体的にはどのようなことですか。二〇字程度で説明しなさい。

問五 ⑤について、「この空気」とはどのようなものですか。その説明としてもっともふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア、皆が自分の走りの調子を上げることしか考えておらず、チームとしての完成度を上げられていない状態。

イ、大会を目前にして、部長である「榊井」の調子が上がらないことに他のメンバーが戸惑いを感じている状態。

ウ、部長である「榊井」の走りがいつまでたっても良くならないことに他のメンバーが不信感を抱いている状態。

エ、経験の浅いメンバーが大会を目前に控えて、実力を発揮できないかもしれないと不安に思っている状態。

問六 本文において、「榊井」はどのような人物として描かれていますか。「榊井」の人物像を四〇字以内で説明しなさい。

③ 次の文章を読んで後の問に答えなさい。

人気グループであるS M A Pのヒット曲「世界に一つだけの花」に、次のような歌詞がある。

「ナンバー1にならなくてもいい。もともと特別なナンバー1。」

この歌詞に対しては、大きく二つの意見がある。

一つは、この歌詞のとおり、A ナンバー1が大切という意見である。世の中は競争社会である。(a)、何もナンバー1にだけ価値があるわけではない。私たち一人ひとりには特別な個性ある存在なのだから、それで良いのではないか。これは、もつともな意見である。

一方、別の意見もある。オンリー1で良いと満足しては、努力する意味がなくなってしまう。世の中が競争社会だとすれば、(b) ナンバー1を目指さなければ意味がないのではないか。これも、納得できる意見である。

オンリー1で良いのか、それともナンバー1を目指すべきなのか。あなたは、どちらの考えに賛同されるだろうか？
じつは、生物たちの世界は、この問いかけに対して、明確な答えを持っているのである。

じつは、生物の世界では、ナンバー1しか生きられないというのが鉄則である。これが「ガウゼの法則」と呼ばれるものである。

※1 旧ソビエトの生態学者ゲオルギー・ガウゼは、ゾウリムシとヒメゾウリムシという二種類のゾウリムシを一つの水槽^{すいそう}でいっしょに飼う実験を行った。すると、水やエサが十分にあるにもかかわらず、最終的に一種類だけが生き残り、もう一種類のゾウリムシは駆逐^{くちく}されて、滅んでしまったのである。二種類のゾウリムシは、エサや生存場所を奪い合い、どちらかが滅ぶまで激しく競い合う。そのため、共存することができないのである。

ナンバー1しか生きられない。これが自然界の厳しい掟^{おきて}である。

競争社会とは言っても、人間社会の競争はずいぶんと緩やかなので、ナンバー2やナンバー3であっても、銀メダルや銅メダルで称^たえられる。しかし、厳しく競い合う自然界でナンバー2はあり得ない。ナンバー2は滅びゆく存在なのである。

やはり、オンリー1ではだめなのか。

そう考えるのはまだ早い。じつは話はそんなに単純ではないのだ。

自然界を見回せば、多種多様な生き物が共存して暮らしている。ナンバー1しか生きられないはずの自然界で、どのようにして多くの生物が存在しているのだろうか？

じつは、ガウゼが行った実験には、続きがある。

今度はゾウリムシの種類を変えて、ゾウリムシとミドリゾウリムシで実験をしてみた。(c)、驚くことに二種類のゾウリムシは一つの水槽の中で共存をしたのである。

どうして、最初の実験ではゾウリムシは共存できなかったのに、この実験では二種類のゾウリムシが共存しえたのだろうか。

じつは、ゾウリムシとミドリゾウリムシとは、棲すむ場所とエサが異なるのである。ゾウリムシは、水槽の上の方うへにいて、浮ういている大腸菌だいちょうきんをエサにしている。これに対して、ミドリゾウリムシは水槽の底の方そこにいて、酵母菌こうぼきんをエサにしている。つまり、同じ水槽の中でも、住んでいる世界が異なれば、競い合うこともなく共存することが可能なのである。

これが「棲み分け」と呼ばれるものである。

そうだとすれば、他の生物と激しく競争しあつて、自分の居場所を確保するよりも、他の生物と争まわらないように、ずらしながら、居場所を探したほうが良い。この「ずらす」ということが生物にとつては、重要な戦略になるのである。

ナンバー1しか生きられない。これが揺るがすことのできない自然界の鉄則である。

しかし、自然界にはさまざまな生物がいる。つまり、それぞれの生物がそれぞれの居場所でナンバー1なのである。すべての生物がナンバー1になれる場所を持っているのだ。このナンバー1になれる場所が、その生物のBオンリーB onlyなものである。

ナンバー1であることが大事なのか？ オンリー1であることが大事なのか？

① 自然界が出した答えはもうわかるだろう。(d)

もつとも冒頭ぼうとうに紹介したS M A Pの「世界に一つだけの花」の舞台ぶたいは、「花屋の店先に並んだいろんな花」である。人間が世話をしてくれる花屋の花であるなら、ナンバー1でなくとも、オンリー1であればそれでいい。

しかし、自然界であれば、ナンバー1になれる場所を見出さなければ生存することはできない。オンリー1とは、自分が見出した自分の居場所のことなのである。

どこかの場所で、すべての生物はナンバー1である。そして、ナンバー1を勝ち取った生物たちが、この自然界を埋め尽くしているのである。

すべての生物は少しづつ居場所をずらして、ナンバー1になれる場所を見出している。

② ずらし方は、さまざまである。

ゾウリムシの例のように、水槽の上の方と、水槽の底の方というように、場所をずらすという方法もある。もちろん、同じ場所にさまざまな生物が共存して棲むこともある。たとえば、アフリカのサバンナではシマウマは草原の草を食べて、キリンは高い木の葉を食べている。このように同じ場所でもエサをずらすという方法もある。あるいは、昼に活動するものと夜に活動するものというように、時間をずらすという方法もある。

このように条件のいずれかをずらすことで、すべての生物はナンバー1になれるオンリー1の場所を見出しているのである。

このような、それぞれの生物の居場所は、生物学では「ニッチ (Niche)」と呼ばれている。

ニッチというと、ビジネスの世界では、ニッチ市場やニッチ戦略というように、マーケティング用語として知られている。

ニッチとは、大きな市場ではなく、大きな市場と大きな市場との隙間すきまにあるような、特定の小さな市場という意味で使われる。これはもともと生物学で使われていた用語が、マーケティング用語として広まったのである。

マーケティング用語として、ニッチというと、「すきま」という意味合いが強いが、もともとは単にすきまを意味するわけではない。

「ニッチ」とは、もともとは、そうじやくひん 装飾品を飾るために寺院などの壁面へまがに設けたくぼみむらを意味している言葉である。それが転じて、生物学の分野で「ある生物種が生息する範囲の環境」を指す言葉として使われるようになった。生物学では、ニッチは「生態的地位」と訳されている。

一つのくぼみに、一つの装飾品しか置くことのできないのと同じように、一つのニッチには一つの生物種しか住むことができない。そして、すべての生物が自分だけのニッチを持つているのである。もちろん、大きなニッチを持つものもあれば、その隙間の小さなニッチを持つものもいる。そして、そのニッチは重なりあうことがない。もし、ニッチが重なれば、ゾウリムシの実験に見たように、そこでは、激しい競争が起こり、どちらか一種だけが生き残り

③ こうして、世の中のすべての生物が、それぞれのニッチを持つている。そして、ジグソーパズルのたくさんのピ

ースがはまっっていくように、たくさんの生物のニッチで埋め尽くされて「生物多様性」と呼ばれる世界が作られているのである。

〔植物はなぜ動かないのか―弱くて強い植物のはなし―〕 稲垣栄洋

※1 ソビエト … 1922年から1991年までの間に存在したソビエト社会主義共和国連邦の略称。

問一 (a) ~ (c) の空欄にはいる語としてもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア、やはり イ、しかし ウ、すると エ、それゆえ オ、ところで

問二 … AB「オンリー1」は同じ言葉ですが、文中での意味が異なっています。それぞれ文中ではどのような意味で使われていますか。その説明としてもっともふさわしいものを一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア、他の存在よりも優れた存在でいられる特別な環境をもっているという意味。

イ、他の存在がうらやましがるような固有の能力をもっているという意味。

ウ、他の存在には見られない異質な習性をもっているという意味。

エ、他の存在が持っていないような特異な個性をもっているという意味。

オ、他の存在では考えられない独特な才能をもっているという意味。

問三 — ①について、「自然界が出した答え」が（d）に入ります。次のうちからもっともふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

- ア、すべての生物はナンバー1である。つまりオンリー1には価値がないのである。
- イ、すべての生物はオンリー1である。それゆえナンバー1には意味がないのである。
- ウ、すべての生物はナンバー1ではない。さらに言えばオンリー1でもないのである。
- エ、すべての生物はナンバー1である。そして、すべての生物がオンリー1なのである。

問四 — ②について、居場所やエサが競合しそうな動植物の例を次のようにあげました。例文の中で、「棲み分け」ができていないものを選び、記号で答えなさい。

- ア、日中に活動をする鷹と夜間に活動をするフクロウ。
- イ、特定のエサしか食べないニホンザリガニとどんなエサでも食べるアメリカザリガニ。
- ウ、回遊して餌を捕えるマグロと海底で餌がやってくるのを待っているヒラメ。
- エ、水温の低い場所に生息するイワナとその場所よりは水温の高い場所に生息するヤマメ。

問五 ——— ③について、この文章を読んだ二人の生徒が「生物多様性」について議論している。以下の文章を読んで後の間に答えなさい。

聖子 とても面白い文章だったわ。SMAPの「世界に一つだけの花」の歌詞を引用しておきながら、文中で「生物の世界では、ナンバー1しか生きられないというのが鉄則である」なんて言いきってしまうのは面白いわね。それに、「ニッチ」という言葉は以前から知っていたけど、生物学からきた言葉だったのね。この文章で初めて知ったわ。

学 そうだね。僕も知らなかったよ。僕は今まで気にも留めなかった身近な動植物も生存競争を生き残るためにさまざまな戦略をとっていることを知ったのが面白かったな。

聖子 そうね。「サバンのシマウマとキリン」の例はその具体的な例としてとてもわかりやすかったわ。

学 ところで、聖子ちゃんは「中程度攪乱仮説」というアメリカの生態学者が提唱した学説を知っているかな？生物多様性に関する学説なのだけでも。

聖子 いえ。知らないわ。それはどんな学説なの？

学 生物の種類は安定した条件の中で暮らすよりも、変化する不安定な条件の中で暮らす方が増える、ということ
を主張した学説で、攪乱という言葉はここでは「生物にとって急激な環境の変化」という意味で使われている。

聖子 もう少し詳しく説明して。

学 うん。この図を見てほしい。縦軸は「生物の種類の数」を、横軸は環境の変化の大きさを表しているのだけれど・・・

聖子 左に行けばいくほど環境の変化が少ない安定した生物にとっては暮らしやすい環境ということ。右に行くほど環境が大きく変化する、つまり生物にとってより厳しい環境になるということかしら？

学 そうだね。南極とか北極とか、砂漠とかみたいなのでも生物が暮らすことのできないような土地を想像すればいい。

聖子 この図を見ると、左端と右端の縦軸がとても低くなっているわ。厳しい環境の中で適応する生物が少なくなるのはわかるけれど、安定した環境の中でも生物の種類は少なくなってしまうのはなぜかしら？

学 安定した環境の中では激しい生存競争が起こり、その競争に強い生物のみが生き残って弱い生物は滅びてしま
うからだそうだよ。

聖子 なるほど！文章にあった「ガウゼの法則」だね。つまり強い生物と弱い生物が「棲み分け」できず、弱い生物が「ニッチ」を獲得することができなかつたということね。

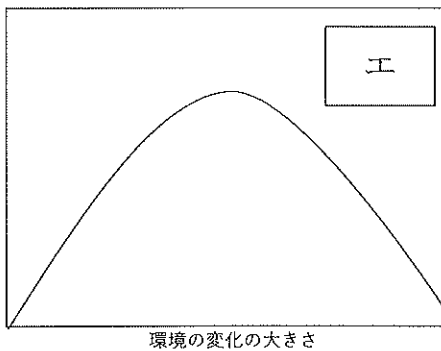
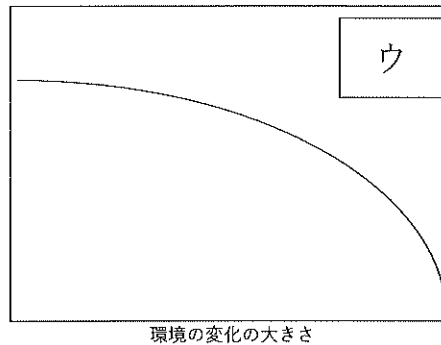
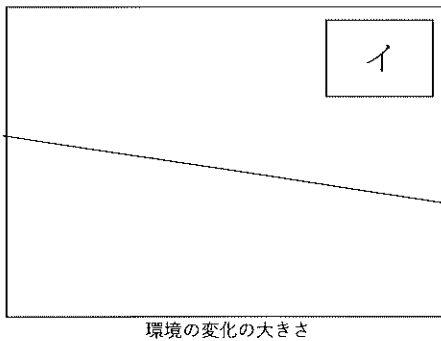
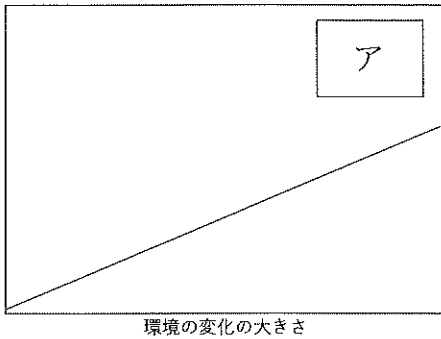
学 その通り！ある程度の攪乱がある不安定な条件では、必ずしも強い生物だけが生き残るのではなく、その変化によって起こった様々な環境が生まれ、多くの種類の生物が「ニッチ」を獲得し、生き残ることができる。つまり生物の種類が多くなるんだ。

聖子 とても勉強になったわ。学くん、どうもありがとう。

(1) ……について、「生物の世界では、ナンバー1しか生きられないというのが鉄則である」とありますが、それはなぜですか。その理由を六〇字程度で簡潔に説明しなさい。

(2) ——③について、「生物多様性」と呼ばれる世界」とありますが、多様な生物種が共存していられるのはなぜですか。その理由を三五字程度で簡潔に説明しなさい。

(3) 二人の会話を参考に、**この図**を表現した図としてもつともふさわしいものを選びなさい。



三			二				一					
問五			問三	問二	問一	問六		問五	問四	問一	⑥	①
3	2	1		A	a							
			問四							問二	⑦	②
				B	b							
										問三	⑧	③
					c						⑨	④
											⑩	⑤

受験番号
座席番号
名前

2018年度
第1回特待・アドバンスト入試
国語・解答用紙
聖学院中学校